

天文学とプラネタリウム

第103回



今月のお題

学会で天プラを楽しもう？



あなたの街にも、天文学者が大挙して押し寄せるかもしれない？
もしそんな機会があれば、ぜひ会いに行きましょう！



www.tenpla.net

高梨直結 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

皆さんは天文学者と間近で遭遇した事がありますか？星ナビ読者の皆さんなら、会ったことがある！という方も多いかもしれませんね。しかし、一般には天文学者との邂逅は超レアな出来事です。日本全体の天文学者はざっと1,000人くらいだとすると、およそ13,000人に1人くらいしか天文学者はいないことになります。うーん、なんて希少な生物。もし見かけてもいたずらをせず、ぜひ優しく見守っていただきたい。

さて、生息密度の低い天文学者たちですが、年に2回だけ、全国からわらわらと狭い範囲に集まってくる習性があります。専門用語で“ガッカイ”と呼ばれる現象です。時期は春と秋。会場は持ち回りで、全国各地の都市で開催されています。

学会は、天文学者と遭遇するたいへん貴重な機会です。別に、学会が行われている会場に向く必要はありません（もちろん、行っても良いですが参加費がかかります）。ほっといても、夜になるとぞろぞろと学会会場から出てきて、街のあちこちらで見かけるようになります。

観察のチャンスタイム到来です。天文学者の多くはアルコールに引き寄せられる習性がありますので、そういったものを出す店のあたりで張っていれば、高い確率で遭遇することができるでしょう。あっちのテーブルもこっちのテーブルも天文学者のグループという光景を目にすることも、ざらです。

もしもあなたに勇気があれば、そこで声を掛けてみるのも良いかもしれません。概ねシャイな天文学者ですが、コミュニケーション好きな人も少なくありません。うまく声掛けできれば、楽しく一緒におしゃべりできるかも。でも、自分から声掛けなんて…というあなた、ぜひ天プラのイベントに参加しませんか？

学会に合わせたイベント企画

天プラでは、学会は研究者と市民の交流する絶好の機会と見て、学会開催地での対話型イベントの開催を、昨年から行っています。2011年秋に鹿児島市内で3箇所計5回のイベントを行ったのを皮切りに、2012年春には京都市内で、秋には別府市内でイベントを開催してきました。

スカイプラネタリウム展III、天プラも協力します



2012年秋に行われた、別府市内でのイベントの様子。この回は、Mitakkaを使ってお話した。

これらのイベントに共通する特徴は、少人数で対話重視な点。多くても20名程度の参加者に、天文学者が数名加わっておしゃべりをする、そんなイベントを実施しています。京都では古民家を借り切ったり、別府ではアトスペースを使ったりと、会場もユニークなところばかり。大人数を相手にする講演会とは違った切り口で、イベントを企画しています。

今回は2013年春の埼玉大での学会。この時も、ユニークなイベントを企画する予定です。天文学者と触れあうには貴重な機会、ぜひお見逃しなく！